

# 八雲

第49号

(平成24年9月発行)

## 大東高校校歌

1、勝田の森の奥深く  
文の林に分け入りて  
学びの花を摘まんかな  
袂の花のほこらひに  
我が青春は謳ふべし

2、夕影たかく秋深き  
織部の山に風かよふ  
かの夕づつを訪ひを  
返らぬ夢ときくなれば  
手をとりていざ共に笑け

3、理想の洋は遥かなり  
真理の道の遠ければ  
あゝカルデアの牧羊が  
尋ねし星を今更に  
中天高くよまんとす

4、東天高く曙の  
光は走る今にして  
平和の鐘のひびく時  
自由と愛の鐘をとり  
いざ大瀧に掉さゝん





## 絆の深さ

八雲会会長 景山純孝

連日の猛暑の中、八雲会の会員の皆様にはご健勝でご活躍のことと拝察します。昨年6月に関東

支部、7月に広島支部、10月に関西支部加えて地元の各支部会をそれぞれ盛大に開催して頂きました。十数年振りに関西支部会におじゃましましたが、新大阪のホテルで40名を越す盛大な会でした。高2の時音楽を教えて頂いた江草先生(旧姓:堀江)は京都から参加されており、56年前の古い話に花が咲きました。

今年6月30日には、東京お茶の水にあるホテルで東京支部会が開催されました。30数年支部長をされた奥田勲さんと14年振りに会うことができました。18名の方々と親しくお会いできましたが、皆さん一騎当千で、お話の一言一言に圧倒させられました。2年先輩の菊田吉夫さん(7期)には8年振りにお会いし叙勲のさいの記念の写真を頂きました。外交官として沢山の国々を回られ、宮内庁に変わられてからは昭和天皇に仕え大きな業績を上げられました。皇潤皇后の葬儀副委員長、高円宮の葬儀委員長も務めたとのこと。

今春藍綬褒章を受章された青木繁之さん(13期)も出席され話を聞くことができました。青木さんは日本の献血事業を確立され、現在献血

事業団の理事長を務めておられます。6月15日青木さんの受賞を記念した祝賀会を、笹川財団の笹川堯さんが開かれたようです。その様子を詳しく連絡して頂きました。日本の輸血学会の教授の皆さん、日赤の方々等300名が出席し盛大な会だったようです。

5月15日の山陰中央新報に、「雲南市東京ふるさと会」の皆さんが「福島県石川町の町長訪問」としてカラー写真で紹介されました。石川町の町長は大東高校8期の加納武夫さんです。加納さんはご自身の関係された工場を石川町に建設し、そのまま石川町に住まれ、町民の皆さんに請われて町長になられたようです。放射能の風評被害で困っておられるとのことお見舞いの手紙を送りました。6月15日の夜10時に福島から長い電話を頂きました。13年前に奥様を亡くされ今はお孫さんと一緒に住んでいるとのこと。ものすごいエネルギーに孤軍奮闘されている様子が電話から伝わってきました。大東高校の出身と言うこの一言で、年齢差など関係なく100年来の友人のごとく親しくなれます。同窓生としての絆の強さを思い知ったことでした。

八雲会員の皆様には、それぞれの地で健康に留意して過ごされますように切に祈念しています。



## 八雲会会員の皆様へ 校長 奥井 彰

今年の夏も猛暑続きでしたが、八雲会の皆様には益々ご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます。

平素より、本校の教育活動につきましては色々ご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございます。

私はこの4月に着任いたしましたので、6月の東京支部会や7月の八雲会総会には初めて出席いたしました。和やかな雰囲気の中で、当時の懐かしい話や母校に対する熱い思いに触れる度に、出会いの縁に感謝すると共に大東高校の一層の飛躍を心に誓いました。

さて、母校大東高校の現状につきまして紹介をいたします。今現在、1学年4クラス、全校

で12クラス、394名の生徒が在籍しています。平成3年度の18クラスをピークに年々減少し、平成14年度以降現在の全校12クラスとなっています。数は少なくなりましたが、生徒たちは大東高校の校訓である「誠実・勤勉・高邁」の精神を受け継ぎ、礼儀正しくきちんとした学校生活を送っており、地域の方にも愛されている学校であると自負しています。

今年の本校の一番の目標は「元気のある学校を作る」ことであり、そのために文武両道を更に推し進めていきたいと考えています。その成果として、まず「文」におきましては、今年3月の卒業生145名のうち就職希望者は19人いましたが、全員が公務員や県内外の企業に就職しました。また、進学におきましても全国のいわ



ゆる難関と呼ばれる大学に複数合格しました。一方「武」におきましては、5月下旬から6月初めにかけて開催された県の総合体育大会のBグループで8年ぶり3度目の男女総合優勝と10年ぶり2度目の男子総合優勝を勝ち取り、高体連から表彰を受けました。その結果、7月下旬から8月初旬にかけて北信越五県で開催された「全国高校総体」には男女バドミントン部と女子空手道部、男子剣道部が出場しました。

県の総体期間中には、生徒昇降口に「激励メッセージボード」を設置したり、松江・出雲の会場に全校応援に出かけたり、学校一丸となって選手たちに声援を送りました。また、地域へ

の感謝の気持ちを込めて、普段利用させていただいている体育施設やカーブミラーなどを全校で清掃しました。

今年三月の卒業生を加えて、八雲会の会員数は12,822名となりました。6年後の2018年（平成30年）には創立百周年という大きな節目を迎えます。これからも皆様方の志をしっかりと受け継ぎ、「誠実な心と、勤勉な態度で、高邁な目標達成のために精進する」大東高校生を育てていきたいと考えておりますので、今後とも母校に対するご支援、ご協力を宜しくお願いいたします。

平成24年度

# 八雲会

—報告・活動状況—

## 総会

平成24年度の八雲会総会を7月14日（土）に、大東町地域交流センター研修室において開催しました。景山純孝会長、奥井彰校長の挨拶に始まり、議事では、昨年度の事業報告・決算報告、本年度の事業計画・会

計予算等について報告がなされました。また今年度は役員改選の年にあっており、選考委員会報告のあと、平成24～25年度の会長、副会長、監事が満場一致で承認されました。引き続き各支部の新役員の報告も行われました。平成24年度、25年度の役員については、あとのページに掲載しております。役員の皆様どうぞよろしくお願ひします。

さらに、八雲会会則第4条、八雲会の事業について、第1項「会報及び会員名簿の発行」が「会員登録並びに会員情報管理、会報発行」に改められ、総会において承認され、平成24年7月14日より改正実施となりましたことを報告いたします。八雲会会則については、大東高校ホームページ (<http://www.daito-h.ed.jp>) でご確認ください。

総会終了後、今年は春雨や落雷師匠による落語と健康講話「お達者落語会」で楽しいひとときを過ごしました。春雨や落雷師匠（本名：安部正之氏）は、松江市在住の医学博士。今年6月に真打ちに昇進した全国でただ一人の医師免許を持つ落語家です。平成21年に、安部整形

外科医院を後進にゆずられ、春雨や落雷として、噺家に専念。古典落語といきいき医学講話の二部構成からなる「お達者落語会」を主宰し、県内外で口演、地域医療振興に携わっております。

第I部の古典落語では江戸噺で冒頭から客席を大いに沸かせ、続く第II部では「笑って健康」と題した医学講話で、さらにまた会場を大きな笑いで満たしていただきました。笑いがNK細胞を瞬時に活性化させるなどの医学の実証データと、歩くことができず車いすで来た人が落語を聞いた後は自ら歩いて帰ることができた実例など、医師としての経験談を交えたお話で、「笑い」が持つパワーを「笑うこと」とおして実感することができました。時として精神的に笑える状態ではないときもありますが、そんな時こそ、無理にでも笑う、笑顔をつくるようにしなければと感じました。最後に全員で「わ～っはっは」と3回大きな声で笑って口演が終わりました。本当に笑いの尽きないあっという間の90分間でした。

続く懇親会でも笑いが絶えず、交流が深められました。総会は毎年7月の第2土曜日に開催することになっています。来年度さらに多くの方に出席していただけることを願っています。



## 関東支部会

平成24年度の八雲会関東支部会が6月30日(土)、東京都文京区湯島の「東京ガーデンパレス」に於いて開催されました。八雲会本部からは景山純孝八雲会会長、奥井彰副会長(大東高校校長)、及び高橋隆正幹事長(大東高校教諭)の3名が参加しました。当日は東京都及びその近県(神奈川・千葉・埼玉)から会員19名の方が出席されました。奥田勲関東支部長の開会のご挨拶に続き、景山純孝会長のご挨拶、奥井彰校長からの大東高等学校の近況報告があり、その後懇親会に入りました。

景山会長のご挨拶の中で、本校卒業生で福島県石川町長をなさっている加納武夫さん(高8期卒)と今春の叙勲で藍綬褒章を賜られた青木繁之さん(高13期卒)についてご紹介がありました。



奥田勲関東支部長  
ご挨拶

首都圏在住の雲南市出身者でつくる「雲南市東京ふるさと会」の方々がこの5月に福島県石川町を



〈関東支部会参加者記念撮影〉

2012年(平成24年)5月15日(火曜日) 新聞記事 18

### 同郷町長の石川(岩)訪問 風評被害実態視察し激励

雲南市出身の加納武夫町長(前左から2番目)を訪ねた雲南市東京ふるさと会のメンバーら(福島県石川町)。



雲南市出身の加納武夫町長(前左から2番目)を訪ねた雲南市東京ふるさと会のメンバーら(福島県石川町)。

雲南市出身の加納武夫町長(前左から2番目)を訪ねた雲南市東京ふるさと会のメンバーら(福島県石川町)。

雲南市出身の加納武夫町長(前左から2番目)を訪ねた雲南市東京ふるさと会のメンバーら(福島県石川町)。

訪問され、福島第一原発事故による風評被害の実態を視察され激励をされたそうです。そのことを伝え聞かれた景山会長は加納石川町長に激励のお手紙を出されました。

また、青木繁之さんは献血運動を始めて50年、公益財団献血供給事業団を設立されて45年、同事業団理事長をされて12年、その活動が認められ、今春の叙勲で藍綬褒章を賜られました。

懇親会では、大東高校の現在の様子などを紹介するスライドを映しましたが、その中に参加者の方々の懐かしいスライドもあり盛り上がっていました。最後は校歌を4番まで歌い、閉会しました。

雲日本大震災から1年... 以上が新聞記事の抜粋です。

〈山陰中央新報〉

## 広島支部会

平成24年度の八雲会広島支部会が7月21日(土)、広島市南区大須賀町の「ホテルニューヒロデン」に於いて開催されました。八雲会本部からは金築映次八雲会副会長、児玉論事務局長(大東高校教頭)、及び門脇康文幹事(大東高校教諭)の3名が参加しました。当日は広島県内から会員21名の方が出席されました。富久禮識広島支部長の開会のご挨拶、金築副会長のご祝辞、議事の平成23年度決算報告に続き、役員改選があり、長きにわたり支部長を務めて頂いた富久様が顧問に、新支部長には佐藤和紀(高定12期卒)様が、事務局長には佐藤眞(高17期卒)様が、副事務局長には三島暁子(高17期卒)様が満場一致の拍手をもって選ばれました。その後、児玉論教頭から大東高等学校の近況報告があり、懇親会に入りました。

金築副会長のご祝辞の中では、雲南病院の建て替えなど雲南市を取り巻く環境などを中心にお話になり、富久支部長からは世代交代のため辞意を固められたことなどが話されました。

懇親会では、大東高校の現在の様子などを紹介するスライドを映しましたが、その中に参加者の方々の懐かしいスライドもあり盛り上がっていました。最後は参加者お一人お一人の近況報告があり、来年の再会を約して中締めをしました。また、ほとんどの方が同ホテルの地下のスナックでカラオケを歌われ、自慢のものを披露され、賑やかで和やかな雰囲気の中で支部会が終わりました。



〈富久広島支部長ご挨拶〉



〈広島支部会参加者記念撮影〉



## 関西支部会

平成24年度の関西支部総会は、来る10月14日、新大阪駅前のニューオーサカホテルで予定。支部会員200名に案内しているが、さて、何人集まるか興味津々。昨年も、同ホテルで10月に開催したが参加者は37名。ちょっと物足らなさを感じた。その前年22年度は、支部会復活最初の総会であったが、51名の参加を得ただけに大幅ダウンは寂しかった。

本誌46号で記載しているように、関西支部は、長い間休眠状態におかれ、活動を中止していた。3年前の秋、本部から復活について強い要請があり、活動の再開が決まった。最初に手掛けたのが名簿の整理。本部から頂いた名簿672名に文書発信をし、復活第1回の支部会開催案内と会運営に関するアンケートを実施した。回答は、返信ハガキで行ったがその回収率は極めて低く45%の288通。半分以上の会員は無関心か、物忘れ等の不注意か、この現状には驚いた。

それはともかく、アンケートの「今後の会合等の案内はしてほしい」と回答した195名を対象として名簿を作成し、関西支部の会員として対応している。その後、入会者もあり現在200名の会員。関西在住の方で、そんな案内は来ていない、と不審に思っている方は、案内文書を新たに出します。右記の連絡先に一報ください。



昨年の関西支部会

2回の総会を通じて感じたことは、①比較的年齢の高い層が活発的。前回の出席者37名の平均年齢は69歳。50～60年前の学園生活を思い出し懐かしむシーンが多かった。②集まった人たちは、交流を深め、楽しみ、同窓と言う絆を大事にした。校歌や応援歌を斉唱し、クラブ活動仲間は肩を組み、青春時代に帰った人もいた。

一方、検討課題も多々ある。①仕事を持っている現役会員への配慮（開催日・曜日・時間等）②若い会員・女性会員への配慮（安い会費・イベント内容）等々。これらについて、意見があれば聞かせてください。改善の参考にします。

連絡先 関西支部事務局 高橋 潮  
TEL・FAX 0745-73-0553  
Eメール ushiot2000@yahoo.co.jp  
携帯メール ushiot636@ezweb.ne.jp

## さつき会

## 23年度湯本温泉観劇同窓会

23年11月7・8日、大東高9期生同窓会（さつき会）を山口県長門市で行いました。7日朝7時大東を9期加納利教氏運転のマイクロバスで出発（東京・大阪・広島・米子からは飛行機か電車）、山陰路を西へ、12時過ぎ長門市の山口県立劇場「ルネッサながと」着。松竹花形歌舞伎「暎の母」、「お祭り」を観劇しました。中村獅童、片岡秀太郎等の名演技に感激しました。長門市には歌舞伎専用の立派なホールがあります。その後大宰寺（大内家の大名寺、住職は9期生岩田啓靖氏—前山口県立大学学長—）を訪ね、岩田氏の話聞きながら広い境内を散策しました。夕暮れが迫って湯本温泉の「大谷山荘」へ行き夜遅くまで親交を深めました。

8日はすぐ近くの仙崎へ行き「みすず通り」を散策したのち記念館でみすずの童謡を心行くまで鑑賞しました。沢山の観光客でしたが、皆一様に優しい顔つきでした。

当初27名の参加予定が急な病気、家族の不幸などで21名となりました。72～73才になるといつ難儀が来るかわからないようです。9期生はこのごろは毎年1泊2日で同期生会を開催しています。

（9期生 景山純孝記）







「勝田の森の奥深く・・・」で始まる大東高等学校校歌。大東高校の生徒たちは、いつも本当に大きな声で歌います。その声の大きさに他校から異動してくる教職員はだれも驚きます。行事のたびに歌われますが、通常は2番までしか歌われません。体育館には2番までの歌詞が掲示してあるので、3番、4番があることを知らない人、あることは知っていても歌詞まで知らない人も多くいるかもしれません。

「カルデアの牧人」が出てくる3番、「東天高く曙の」から始まる4番とスケールの大きさを感じさせる歌ですが、この校歌はどのように生まれたのでしょうか。

平成23年春、高校2期の家島茂子さん（加茂町在住）、高校4期の永瀬豊美さん（木次町在住）から、河原一朗前校長あてに送られた書簡があります。この中に現在の校歌ができあがった経緯などが綴られていました。家島さん、永瀬さんのご承諾を得て、その一部を掲載させていただき、皆様に紹介させていただこうと思います。

### 島根県立大東高等学校 校歌

作詞：萬波 教  
作曲：高見俊雄

(前奏) ♩=112

一、かゆりと 二、三、四、 三、 四、

かゆりと 三、 四、

ふおしひ

まかあへ

のぬしと

がろうぞ

二、

三、

四、

- 一、勝田の森の奥深く  
文の林に分け入りて  
学びの花を摘まんな  
袂の花のほこらひに  
我が青春は謳ふべし
- 二、夕影たかく秋深き  
織部の山に風かよふ  
かの夕づつの訪ひを  
返らぬ夢ときくなれば  
手をとりていざ共に哭け
- 三、理想の洋は遙かなり  
真理の道の遠ければ  
あゝカルデアの牧人が  
尋ねし星を今更に  
中天高くよまんとす
- 四、東天高く曙の  
光は走る今にして  
平和の鐘のひびく時  
自由と愛の舵をとり  
いざ大瀛に棹さへん

特集

# 校歌誕生



(前文略)

私たちは高校2期の卒業生で、終戦は昭和20年ですから女学校2年の夏でした。竹工場で竹をなたで削り、竹の水筒や救命具など軍隊で使われるものを作りました。また、田仕事、畑仕事の奉仕作業、山からの木の運搬、竹槍で藁人形をついて人を殺す練習もしました。校長先生は「お前たちは女の将校だ」と厳しく訓辞をされました。それが終戦……。死をもって国に盡くすという教育が自由の尊重へと百八十度転回しました。死をもって国に盡くせと説いた同じ先生から自由の良さを学びました。先生たちも大変だったと思います。私たちより2年上の満蒙開拓義勇軍として満州に行った人たちは、栄養失調のやせ細った体で帰国されました。そして学生改革。旧制中学校・旧制女学校がなくなり、小中学校が義務教育となり、女学校を終えた中の希望者が高校2年に編入されました。

そんなもやもやの時代でしたが、今までの自由のない教育から、文化的な教育を受け入れようとする雰囲気が出来てきたと思います。その中で若くして赴任してこられた星野早苗先生が当時元映画助監督で木次に疎開しておられた石橋克己先生の指導を受けながら学校に演劇を根づかせられました。私たちの女学校4年(1947年)の時からだだったと思います。2年間演劇指導をやらされましたが、県の教員大異動で星野先生が松江へ、萬波先生が松江から大東に赴任されました。二人とも演劇に熱心な先生でした。しかし、萬波先生は演劇だけでなく他の方面にも活躍されました。

まず校章……。女学校の校章はたしか桜の花を基にしたような校章だったと思います。男女共学になった今、校章を変えなければならなかったと思います。これは先生が個人で計画されたのか、みんなで協議されて思い立たれたのかは知りません。私たちの在学中、その原型が渡り廊下に貼って見せられた記憶がありますから、昭和24年頃だったと思います。上の方がとがっていて、それは叡智を表すのだと言われたように記憶しています。

次が校歌……。 「教えのみこと胸にしめ 家をととのえ身をおさめ 女の道にいそしまん」というような歌詞でしたから、無論かえる必要があります。そこで萬波先生が校歌もつくられました。これもどんな経過で萬波先生がつくられるようになったかはわかりません。

その校歌には、「ああカルデアの牧人が 尋ねし星を今更に 中天高くよまんとす」という歌詞があったと思いますが、それがどんな意味を持っているかを直接聞いておりませんが、私の記憶の中の二、三のエピソードを重ね合わせることでその心を探ることができるような気がします。

その一、先生の赴任の1校時目の授業……。

「人生は砂漠を行く人のようだ。背に大きな荷物(苦悩だったかなと思います)を負い、胸に大きな希望を持ってひたすら地平線に向かって歩く」

この話を黒板に一本の線を横に書き、手前に荷物を背負った小さな小さな人を書き、その後点々と足跡を書きながら話されました。この時、人生とか、真理とか、永遠とかいう言葉について考えさせられました。

その二、実存主義哲学のこと

先生の授業では国語の読解などあまり記憶がありませんが、「サルトルなどが実存主義の哲学を提唱している。私たちの人生は過去・現在・未来とつながっている。しかし、現在は「あっ。」という間に過ぎていく」という話が耳に残っています。

この二つをとってみても校歌の底には真理の追究とか、永遠とか、現在を大切にとか、そんな気持ちたちが溶け合っただけで含まれているように思います。ただこれは私の勝手な思いです。

(後略 ※この後終戦・学制改革の流れの中で生まれた演劇のこと、文芸誌のことが綴られています。)

島根懸立

大東高等實業

女学校校歌

一、須賀の小川の 未汲みて

流れも清き 真澄鏡

遠き神代を 忍びつつ

心を磨く 我友よ

二、大なる自然に 恵まれて

業をし励み 體を練り

土に親しむ 乙女子が

望の光り 若やかに

三、愛と平和を 生命にて

教育勅語 胸にしめ

家を調べ 身を修め

女の道に 勤まん

※この女学校校歌は大東高校ホームページで聴くことができます。  
歌：渡部みどり

(高女併設中学第一期、高校二期)  
(二〇一一年十一月録音)



## ■はじめに

私は、大東高校を昭和27年3月に卒業した第4期卒業生である。

現在大東高校で歌われている校歌は、私が高校1年の在学中に作られたと記憶している。

私は、この校歌が好きで、この校歌を歌うと今でも当時の若かりし頃を思い出す。

当時の大東高校は、女学校が男女共学の高校に変わってから間もなくであり、大東高校の創成期であった。従って、入学当初は校歌も校章もなかったが、いずれも私たちが在学中に制定されたものである。

当時の学校環境は、今とは隔世の感があり、わずかに学校の近くを流れる「どうど川」は昔の雰囲気を残している。

校章は、最初、雪の結晶をモチーフにした六角形の図案が示されたが、どういうわけかそれが変更され、現在の校章に決まったことを覚えている。

ところで、校歌は、作詞が萬波教、作曲は高見俊雄となっているが、いずれも当時の大東高校の先生であった。萬波先生は国語の先生であり、高見先生は音楽の先生であった。



昭和23年に校章決定。「三方にペン先をあしらった現行の校章の原案作成者は、校歌と同じく、萬波教教諭（国語科）であった。三つのペン先はそれぞれ「真」「善」「美」をペンの方で追求するという理念を象徴化しているし、三つのペン先をとり結ぶ枠は主として装飾的效果を狙ったもので特別な意味づけはないという。」

【大東高等学校60年誌】より

## ■萬波先生のこと

校歌を作曲された高見先生は髪を長くしてまさに音楽家の風貌をしておられた先生であったが、私は音楽を選択しなかったので直接教わっていなかったので印象が少ない。

作詞された萬波先生は、台北帝国大学の哲学科卒業ということで、私たちは国語を習った。当時は、きわめて自由な雰囲気があり、国語の時間にキェルケゴールやニーチェなどの実存哲学の話聴いたものである。

こうした中で、萬波先生は国語の時間に作詞された校歌について、その思いや内容などを語られたことを覚えている。

何といっても約60年も前のことであるので、すべて鮮明に覚えているわけではないが、先生の授業時間の癖であった手のひらにチョークをのせてゆすりながら校歌の歌詞について話されたことを覚えている。

## ■記憶の中から

歌詞の内容について覚えていることは主に二つあるが、その一つは、2番にある「かの夕づつ<sup>ほむ</sup>の訪ひを」の部分である。

「夕づつ」とは金星の「宵の明星」のことであり、「宵の明星」は夕方西の空に明るく輝くことから、古代ギリシャ・ローマの人たちは女神としてあがめ、特別な星としてとらえていたという。「かの夕づつ」というのはそんな意味があったのである。

私の記憶は、そこまでであるが、金星は「宵の明星」と共に明け方に東の空に明るく輝く「明けの明星」もあり、古代の人たちにはその美しさから特別なあがめる星として映っていたようである。

なお、金星が「明けの明星」とか「宵の明星」として強く光り輝くのは、金星の表面は、ガスに覆われているために、太陽の光を強く反射してしまうからだといわれている。

また、金星は、地球より内側を公転している星であることから、「宵の明星」「明けの明星」となる周期が長く、何百日かの日数がかかる。

そこで、「かの夕づつ<sup>ほむ</sup>の訪ひを」がどうして「帰らぬ夢とききなれば」ということにつながるのか、そのことについて萬波先生の話の記憶は定かではないが、一回「夕づつ」が訪れると、次、なかなか帰ってこないことから帰らぬ夢となるのか、この部分の歌詞の受け止めはかなりの想像力が求められる話であろう。



次に、3番の歌詞にある「あ、カルデアの<sup>まきびと</sup>牧人が」というくだりは次のような意味であったと記憶している。

「カルデア」というのは、古代オリエントのバビロニアのことを指しており、ここは乾燥地帯であることから殆どが遊牧の民であった。これを「<sup>まきびと</sup>牧人」と表現されたわけであるが、遊牧の民はその生活様式から、月の満ち欠けや星の運行に関心を持ち、長い経験の中で天文学が発達したといわれている。

この「カルデアの<sup>まきびと</sup>牧人」たちがどんな星を探し求めていたのか、ロマンを感じ、興味をそそられる話である。

### ■この校歌を懐しむ

さて、私の記憶をたどって校歌について部分的で中途半端な記述をしてしまったが、この大東高校の校歌は、ロマンチストであり哲人でもあった萬波先生の詩らしく、ロマンに満ちた心地よい響きがある。

「勝田の森」とか「織部の山」といった大東高校周辺のローカルな地名を歌詞に盛り込みながら、「かの夕づつ<sup>いづな</sup>の訪ひを」とか「あ、カルデアの<sup>まきびと</sup>牧人が」といった壮大な歴史のロマンと「我が青春は謳<sup>うた</sup>うべし」「手をとりにていざ共に哭け」「いざ大瀛<sup>だいえい</sup>に棹さゝん」といった大いなる人生のロマンがあり、とても心に響く味わいのある校歌であると思っている。

卒業生の皆さんが、それぞれにおいてこの校歌を懐かしみ、時には口ずさみ、母校を思い起こし、故郷の光景に思いを馳せ、自分たちの青春を懐古することで、時には元気が出てくるのでは……とも思っている。

## 和田はるひさん(高9期)から 書を寄贈していただきました

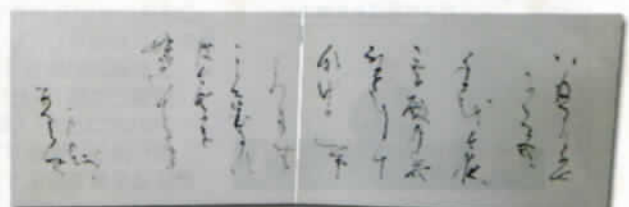
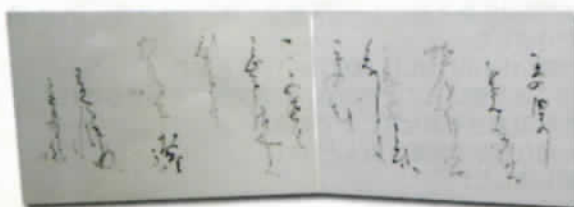
本校第9期和田はるひさんから、書を贈呈していただきました。屏風仕立ての大きな作品で、応接室に保管され、入学式、卒業式などの行事のたびに展示させていただいています。

### 書歴

昭和13年7月30日生まれ

昭和32年3月大東高校卒業(第9期)

昭和53年に、現在香環会会長の榎倉香邨に師事。「かな書道」のいろはより手ほどきを受け、古筆の臨書から創作へと書くことの楽しみを教わる。その間、鳥根書道会会員を経て、鳥根書道協会会員となり、作品を出品。また読売書法会幹事・日本書芸院二科審査会員・香環会同人として、それぞれの企画展並びに日本の書展に出品した。さらに社中展「香春会かな書展」を一年おきに5回開催し、互いに研鑽。現在香環会同人の籍のみ残し、かなを趣味として楽しむ生活を過ごす。





◆ 青木 繁之 (あおき しげゆき) (高校第13期)

『安全な血液を求めて  
-危ない血液はもういない』 2007年2月 アドスリー



青木繁之氏



青木繁之氏は1942年生まれ、大東高校第13期卒業生です。大東高校在学時に青少年赤十字団入団。学生の時に赤十字学生奉仕団、関西献血学生連盟を結成、早くから献血の普及に情熱を注がれました。

2000年から財団法人献血供給事業団の理事長として活躍され、今年3月で退任。献血運動を始めて50年、献血供給事業団を設立されて45年、そして同事業団理事長として12年、日本社会に献血を定着させてこられた功績が認められ、今春の叙勲で藍綬褒章を受けられました。3月8日付けの読売新聞夕刊で青木氏のこれまでの活動についての記事が掲載されています。昨年4月12日の山陰中央新報には、震災直後に放射線被ばく治療の第一人者ロバート・ゲイル博士が緊急来日した時の福島への同行ルポが掲載されています。これらの情報は吹浦忠正氏(ユラシア21研究所理事長)のブログに詳しく載っています。



◆ 恩田 勝亘 (おんだ かつのぶ) (高校第14期)

『東京電力・帝国の暗黒』 2007年10月 七つ森書館

恩田勝亘氏は1943年生まれ、大東高校第14期卒業生です。1967年から女性週刊誌などのライターとなり、1971年から『週刊現代』記者。政治、経済、事件、科学など幅広い分野を取材・執筆。2007年以降はフリーのジャーナリストとしてご活躍中です。

この本が出版されたのは2007年、東日本大震災が起こる4年前です。震災による福島第一原発の事故は予測されていました。想定外の事態ではなく「人災」であることがよくわかります。原発事故後、『原子力村の大罪』(KKベストセラーズ(共著))、『新装版 原発に子孫の命は売れない-原発ができなかったフクシマ浪江町』(七つ森館)、『福島原発 現場監督の遺言』(講談社)など次々と出版。原発再稼働への動きも始まる中、今後私たちが原発に対してどう対応していくべきなのかを考えさせてくれます。



◆ 野々村 直通 (ののむら なおみち) (高校第22期)

『やくざ監督と呼ばれて ~山陰のピカソ・野々村直通一代記』  
2012年4月 白夜書房  
『にっぽん玉砕道 -「子どもが主役」で甲子園に10回も行けるかっ!-』  
(共著) 2012年6月 産経新聞出版

野々村直通氏は1951年生まれ、大東高校第22期卒業生です。広島大学卒業後、広島の府中東高校に美術教師として赴任。6年目の79年春にセンバツ出場。その後松江日大高校の監督を経て松江第一高校(現 開星高校)の教員となり野球部を創部されました。開星高校で春2回、夏7回、甲子園へ出場。今年3月で開星高校を定年退職され、現在は画家、教育評論家として活躍しておられます。



『ようこそ先輩!』 野々村直道先生 講演会を開催



野々村先生が開星高校をご退職後間もない今年4月、大東高校2年生を対象に講演会を開催しました。

ご自身の生い立ちや野球部監督経験を基にユーモアを交えながら生き方について熱意あふれる話をしていただきました。

- ・志を確かに持ち「逃げない」「ぶれない」「群れない」人となれ
  - ・勉強とは勉(つと)めることを強いることである。無理矢理にでもやらされよ
  - ・あいさつとは(人間関係の)責任を果たすことである
  - ・損か得かで判断せず、善か悪かで判断する人となれ
- 最後は全員で校歌を斉唱しました。



# 八雲会 平成23年度事業報告と 平成24年度事業計画

| 平成23年度 事業報告                  |  |
|------------------------------|--|
| 4月15日(金)                     | 第1回校内幹事会<br>(役割分担、事業報告・計画、<br>決算、予算、役員会) |
| 5月16日(月)                     | 監査会、役員会<br>(決算、予算、事業、総会)                 |
| 6月24日(金)                     | 大東支部会(門脇)                                |
| 6月25日(土)                     | 関東支部会<br>(安原副会長・校長・高橋)                   |
| 6月27日(月)                     | 第2回校内幹事会(総会)                             |
| 7月9日(土)                      | 八雲会総会                                    |
| 大東高校 部活動 披露<br>剣道部・空手道部による演武 |  |
| 7月16日(土)                     | 広島支部会<br>(太田副会長・事務長・成相)                  |
| 10月下旬                        | 会報「八雲」第48号発刊                             |
| 10月8日(土)                     | 関西支部会<br>(景山会長・校長・高橋)                    |
| 11月15日(火)                    | 阿用支部会(成相)                                |
| 11月18日(金)                    | 春殖支部会(門脇)                                |
| 11月19日(土)                    | 海潮支部会(門脇)                                |
| 11月21日(月)                    | 加茂支部会(高橋)                                |
| 平成24年                        |  |
| 1月23日(月)                     | 第3回校内幹事会(入会式)                            |
| 2月11日(土)                     | 幡屋支部会(高橋)                                |
| 3月1日(木)                      | 第64期八雲会入会式                               |
| 3月10日(土)                     | 久野支部会                                    |

| 平成24年度 事業計画                      |  |
|----------------------------------|--|
| 4月25日(水)                         | 監査会(H23年度決算)                             |
| 5月9日(水)                          | 第1回校内幹事会<br>(役割分担、事業報告・計画、<br>決算、予算、役員会) |
| 5月14日(月)                         | 役員会<br>(決算、予算、事業、総会)                     |
| 6月25日(月)                         | 第2回校内幹事会(総会)                             |
| 6月29日(金)                         | 大東支部会(成相)                                |
| 6月30日(土)                         | 関東支部会<br>(景山会長・校長・高橋)                    |
| 7月14日(土)                         | 八雲会総会                                    |
| 口演会：「お達者落語会」<br>講 師：春雨や落雷(安部正之氏) |  |
| 7月21日(土)                         | 広島支部会<br>(金築副会長・教頭・門脇)                   |
| 9月下旬                             | 会報「八雲」第49号発刊                             |
| 10月14日(日)                        | 関西支部会<br>(安原副会長・校長・高橋)                   |
| 月 日( )                           | 阿用支部会( )                                 |
| 月 日( )                           | 春殖支部会( )                                 |
| 月 日( )                           | 海潮支部会( )                                 |
| 月 日( )                           | 加茂支部会( )                                 |
| 月 日( )                           | 穴道支部会( )                                 |
| 月 日( )                           | 松江支部会( )                                 |
| 月 日( )                           | 木次支部会( )                                 |
| 月 日( )                           | 塩田支部会( )                                 |
| 月 日( )                           | 佐世支部会( )                                 |
| 月 日( )                           | 幡屋支部会( )                                 |
| 月 日( )                           | 久野支部会( )                                 |
| 平成25年                            |  |
| 2月 日( )                          | 第3回校内幹事会(入会式)                            |
| 2月28日(木)                         | 第65期八雲会入会式                               |



## 平成23年度 大東高校八雲会一般会計決算書

### 1. 収入の部

(単位:円)

| 費目        | 予算額              | 決算額              | 比較増減額           | 備考                                   |
|-----------|------------------|------------------|-----------------|--------------------------------------|
| 入会金       | 1,233,000        | 1,184,980        | ▲ 48,020        | 年額3000円×404名=1,212,000円、返金分▲34,560円等 |
| 繰越金       | 2,171,496        | 2,171,496        | 0               | 前年度繰越金                               |
| 雑収入       | 504              | 4,317            | 3,813           | 預金利息等                                |
| <b>合計</b> | <b>3,405,000</b> | <b>3,360,793</b> | <b>▲ 44,207</b> |                                      |

### 2. 支出の部

(単位:円)

| 費目        | 予算額              | 決算額              | 比較増減額              | 備考                              |
|-----------|------------------|------------------|--------------------|---------------------------------|
| 総務費       | 1,000,000        | 507,582          | ▲ 492,418          |                                 |
| 会議費       | 450,000          | 128,746          | ▲ 321,254          | 役員会、総会費                         |
| 旅費        | 250,000          | 272,810          | 22,810             | 支部会出席旅費                         |
| 通信費       | 100,000          | 17,700           | ▲ 82,300           | 郵券等                             |
| 事務費       | 100,000          | 23,331           | ▲ 76,669           | 事務用品代等                          |
| 管理費       | 100,000          | 64,995           | ▲ 35,005           | 会員登録、データ管理等                     |
| 事業費       | 1,650,000        | 1,144,239        | ▲ 505,761          |                                 |
| 八雲発行費     | 900,000          | 564,464          | ▲ 335,536          | 会報「八雲」印刷代、発送費等                  |
| 支部助成費     | 600,000          | 450,000          | ▲ 150,000          | 関東、関西、広島、大東、幡屋、阿用、春殖、久野、海潮、加茂支部 |
| 入会式       | 150,000          | 129,775          | ▲ 20,225           | 入会記念品(証書入れ、印鑑)                  |
| 雑費        | 100,000          | 17,115           | ▲ 82,885           | 支部一覧、シール代                       |
| 予備費       | 655,000          | 0                | ▲ 655,000          |                                 |
| <b>合計</b> | <b>3,405,000</b> | <b>1,668,936</b> | <b>▲ 1,736,064</b> |                                 |

**特別会計(積立)決算書**

平成22年度末残高 4,072,248円  
 名簿会計より繰り入れ 2,163,486円  
 平成22年度利息 855円  
 平成22年度末残高 6,236,589円

(収入総額) 3,360,793円 - (支出総額) 1,668,936円 = (差引残額) 1,691,857円・平成24年度へ繰越

## 平成24年度 大東高校八雲会一般会計予算書

### 1. 収入の部

(単位:円)

| 費目        | 予算額              | 決算額              | 比較増減額            | 備考           |
|-----------|------------------|------------------|------------------|--------------|
| 入会金       | 1,185,000        | 1,233,000        | ▲ 48,000         | 年額3000円×395名 |
| 繰越金       | 1,691,857        | 2,171,496        | ▲ 479,639        | 前年度繰越金       |
| 雑収入       | 143              | 504              | ▲ 361            | 預金利息         |
| <b>合計</b> | <b>2,877,000</b> | <b>3,405,000</b> | <b>▲ 528,000</b> |              |

### 2. 支出の部

(単位:円)

| 費目        | 予算額              | 決算額              | 比較増減額            | 備考   |
|-----------|------------------|------------------|------------------|--|
| 総務費       | 1,000,000        | 1,000,000        | 0                |  |
| 会議費       | 450,000          | 450,000          | 0                | 役員会、総会費  |
| 旅費        | 300,000          | 250,000          | 50,000           | 支部会出席等旅費                                       |
| 通信費       | 70,000           | 100,000          | ▲ 30,000         | 郵券等  |
| 事務費       | 80,000           | 100,000          | ▲ 20,000         | 事務用品代等   |
| 管理費       | 100,000          | 100,000          | 0                | 会員登録、データ管理等                                    |
| 事業費       | 1,650,000        | 1,650,000        | 0                |  |
| 八雲発行費     | 900,000          | 900,000          | 0                | 会報「八雲」印刷代、発送費等                                 |
| 支部助成費     | 600,000          | 600,000          | 0                | 関東、関西、広島、松江、宍道、加茂、木次、大東、春殖、幡屋、佐世、阿用、久野、海潮、塩田支部 |
| 入会式       | 150,000          | 150,000          | 0                | 入会記念品  |
| 雑費        | 100,000          | 100,000          | 0                | 慶弔費等   |
| 予備費       | 127,000          | 655,000          | ▲ 528,000        |  |
| <b>合計</b> | <b>2,877,000</b> | <b>3,405,000</b> | <b>▲ 528,000</b> |  |

**特別会計(積立)予算書**

平成23年度末残高 6,236,589円  
 平成24年度利息 411円  
 平成24年度末残高見込額 6,237,000円



# 平成24年度～25年度 八雲会役員一覧

| 役職 | 氏名     | 期  | 役職  | 氏名     | 期   | 役職 | 氏名     | 期   |
|----|--------|----|-----|--------|-----|----|--------|-----|
| 顧問 | 川上 朋 良 | 高3 | 副会長 | 安原 重 隆 | 高11 | 監事 | 岩田 松 子 | 高7  |
|    | 角谷 雄 輔 | 高7 |     | 太田 多美子 | 高13 |    | 増田 敏 男 | 高10 |
| 会長 | 景山 純 孝 | 高9 |     | 金築 暎 次 | 高14 |    | 狩野 健 吉 | 高18 |
|    |        |    |     | 奥井 彰   | 校長  |    |        |     |

## 【理事】

| 役職 | 氏名     | 期   | 役職 | 氏名     | 期   | 役職    | 氏名     | 期    |
|----|--------|-----|----|--------|-----|-------|--------|------|
| 大東 | 井上 禱 宏 | 高13 | 久野 | 堀江 善 彦 | 高23 | 木次    | 佐藤 弘 之 | 高23  |
|    | 森脇 誠 夫 | 高10 |    | 長沢 正 也 | 高26 | 宍道    | 渡部 清 美 | 高27  |
|    | 太田 拓 志 | 高13 |    | 長妻 賢 二 | 高32 | 松江    | 林 透    | 高18  |
|    | 光谷 由紀子 | 高18 | 塩田 | 黒川 弘 義 | 高18 |       | 八幡 憲 次 | 高19  |
|    | 安部 幸 治 | 高24 | 佐世 | 福間 正 明 | 高13 | 広島    | 佐藤 和 紀 | 高12  |
| 春殖 | 横山 美 昭 | 高20 | 幡屋 | 森山 武 史 | 高25 | 関西    | 広木 益 夫 | 高16  |
|    | 木村 晋 吾 | 高27 |    | 山崎 英 志 | 高29 |       | 関東     | 奥田 勲 |
| 海潮 | 安達 茂   | 高13 | 加茂 | 金築 暎 次 | 高14 | 林 幸 雄 |        | 高13  |
|    | 塩野 紀 富 | 高9  |    | 梶谷 久 光 | 高6  |       |        |      |
|    | 木村 昭 憲 | 高17 |    | 安部 操   | 高15 |       |        |      |
| 阿用 | 景山 源 栄 | 高15 |    | 岸本 邦 夫 | 高19 |       |        |      |
|    | 荒木 貞 治 | 高9  |    | 斉藤 雅 孝 | 高28 |       |        |      |
|    | 朝日 幸 子 | 高16 |    | 畑 宏 明  | 高29 |       |        |      |
|    | 永瀬 康 典 | 高18 |    | 加納 忠 夫 | 高31 |       |        |      |
|    |        |     |    | 高橋 雄 二 | 高32 |       |        |      |

## 【代議員】

| 役職   | 氏名     | 期      | 役職     | 氏名     | 期    | 役職       | 氏名      | 期      |     |
|------|--------|--------|--------|--------|------|----------|---------|--------|-----|
| 大東   | 糸川 栄 一 | 高19    | 久野     | 上代 英 治 | 高29  | 広島       | 佐藤 眞    | 高17    |     |
|      | 狩野 泰 秀 | 高20    |        | 三澤 郁 穂 | 高35  |          | 三島 暁 子  | 高17    |     |
|      | 小山 益 男 | 高20    | 塩田     | 安達 隆 亜 | 高42  | 関西       | 高橋 潮    | 高10    |     |
|      | 石川 辰 子 | 高23    | 佐世     |        |      | 関東       | 野々村 興太郎 | 高10    |     |
|      | 狩野 恵 子 | 高24    | 幡屋     | 本多 昭 人 | 高21  | 【八雲会支部長】 | 大東支部    | 井上 禱 宏 | 高21 |
| 山本 司 | 高32    | 山崎 達 夫 |        | 高24    | 幡屋支部 |          | 上山 源 正  | 高24    |     |
| 春殖   | 糸原 優 二 | 高33    |        | 舟木 忠 夫 | 高24  |          | 海潮支部    | 安達 山 美 | 高33 |
| 海潮   | 田中 久 志 | 高33    | 田中 互   | 高37    | 阿用支部 |          | 景福 源 正  | 高33    |     |
|      | 新田 昭 隆 | 高15    | 竹村 治 美 | 高17    | 佐世支部 |          | 福横 山 美  | 高15    |     |
|      | 岩田 和 義 | 高19    | 加茂     | 錦織 直 行 | 高19  |          | 春殖支部    | 堀江 善 弘 | 高19 |
|      | 福岡 広 明 | 高20    | 木次     | 吉岡 敏 隆 | 高27  |          | 久野支部    | 黒川 弘 義 | 高20 |
| 阿用   | 宮川 稔   | 高27    | 宍道     |        |      |          | 塩田支部    | 黒金 佐 藤 | 高27 |
|      | 陶山 隆 之 | 高17    | 松江     | 岩橋 弘 政 | 高18  |          | 加茂支部    | 金佐 藤 部 | 高17 |
|      | 細木 康 史 | 高19    |        | 細木 勝 美 | 高18  |          | 木次支部    | 木次 渡 部 | 高19 |
|      | 木色 薫   | 高20    |        |        |      |          | 宍道支部    | 宍道 清   | 高20 |
|      |        |        |        |        |      |          | 松江支部    | 林 透    | 高18 |
|      |        |        |        |        |      |          | 広島支部    | 佐藤 和 益 | 高18 |
|      |        |        |        |        |      | 関西支部     | 佐藤 和 益  | 高18    |     |
|      |        |        |        |        |      | 関東支部     | 奥田 勲    | 高18    |     |

|                |              |                  |                  |
|----------------|--------------|------------------|------------------|
| 大東高等学校事務局長     | 児 王 論 (教頭)   | TEL(0854)43-2511 | FAX(0854)43-2512 |
| 幹事長 高橋 隆正 高32  | 幹事 成相 智志 高33 | 幹事 門脇 康文 高39     |                  |
| 幹事 大給 茂樹 (事務長) | 幹事 小山美紀子     |                  |                  |

よろしくお願ひします。



# 第50回島根県高等学校総合体育大会結果報告

**優勝**  
おめでとう!!

|             |           |             |
|-------------|-----------|-------------|
| バドミントン部(男子) | 学校対抗戦     |             |
|             | 個人シングルス   | 井田淳貴        |
|             | 個人ダブルス    | 岸野高志・井田淳貴 組 |
| バドミントン部(女子) | 個人シングルス   | 小山朋恵        |
| 陸上部         | 男子3000m障害 | 光谷雄佑        |

**祝**  
**インターハイ**  
**出場!!**

|             |         |                      |
|-------------|---------|----------------------|
| バドミントン部(男子) | 学校対抗戦   |                      |
|             | 個人シングルス | 井田淳貴、岸野高志            |
|             | 個人ダブルス  | 岸野・井田組<br>小村肇・山崎敬太 組 |
| バドミントン部(女子) | 個人シングルス | 小山朋恵                 |
| 空手道部        | 個人組手競技  | 新田妃依                 |
| 剣道部         | 男子個人戦   | 勝部義熙                 |

## 各部の結果

ソフトボール部 5/26(土)～5/27(日) 浜田商業高校

2回戦：大東5-2 浜田商業 準決勝：大東13-0 江津 決勝：大東3-5 三刀屋 **準優勝**

陸上部 5/25(金)～5/27(日) 松江市営陸上競技場

・男子3000mSC 光谷雄佑 **第1位** (記録9'45"82)

・男子100m 森山和友 準決勝進出 (記録11"45)

(光谷雄佑さんは大東高校陸上部で24年ぶりに誕生した5人目の島根県高校チャンピオン)

バレーボール部 (男子) 6/1(金)～6/2(土) 島根県立体育館

2回戦：大東2-0 吉賀 3回戦：大東2-0 浜田 準決勝：大東0-2 安来 **第3位**

バレーボール部 (女子) 5/31(木) 金城総合体育館

2回戦：大東1-2 出雲西

バドミントン部 (男子) 5/31(木)～6/2(土) 鹿島総合体育館(ニューウェーブ)

学校対抗 2回戦：大東3-0 松江農林 準決勝：大東3-0 松江商業

決勝：大東3-0 松江北 **第1位** (5年連続18回目)

個人シングルス **1位** 井田 **2位** 岸野 **ベスト4** 小村、森山

ダブルス **1位** 岸野・井田 **2位** 小村・山崎

**ベスト4** 森脇・佐藤匠、森山・細木

バドミントン部 (女子) 5/31(木)～6/2(土) 鹿島総合体育館(ニューウェーブ)

学校対抗 2回戦：大東3-1 松江西 準決勝：大東3-2 松江北

決勝：大東1-3 松徳学院 **準優勝**

個人シングルス **1位** 小山 個人ダブルス 準々決勝に進出できず

バスケットボール部 (男子) 5/31(木) 松江東高校

1回戦：大東48-112 松江東

ソフトテニス部 (男子) 5/31(木)～6/2(土) 県立浜山公園テニス場

団体 1回戦：大東1-2 隠岐島前 個人 全ペア1、2回戦で敗退

ソフトテニス部 (女子) 5/31(木)～6/2(土) 県立浜山公園テニス場

団体 2回戦：大東0-3 大社 個人 全ペア1、2回戦で敗退



卓球部 5/31(木)～6/2(土) 益田市民体育館

男子学校対抗 1回戦：大東1-3 隠岐

個人シングルス 1、2回戦敗退

ダブルス 青木颯・渡部伊吹組 ベスト32

女子学校対抗 1回戦：大東3-0 大社 2回戦：大東0-3 明誠

個人シングルス 1、2回戦敗退

ダブルス 内部奈緒・宮中郁実組 ベスト32

剣道部 5/31(木)～6/1(金) 県立浜山体育館(カミアリーナ)

男子団体 1回戦：大東5-0 益田東 2回戦：大東1-2 平田

個人 **2位** 勝部義熙

女子団体 1回戦：大東2-1 島根中央 2回戦：大東0-2 大社

個人 **ベスト8** 福田綾美

空手道部 6/1(金)～6/2(土) 松江南高校

男子団体形 準決勝：大東1-4 松江南 3位決定戦：大東0-5 松徳学院

団体組手 準決勝：大東4-1 出雲 決勝：大東2-3 松徳学院 **準優勝**

個人形 **ベスト8** 植田竜次

個人組手 **4位** 植田竜次 **ベスト8** 加納聖也

女子団体形 決勝：大東0-7 松江南

団体組手 決勝：大東1-4 松江南

個人形 ベスト8まで残れず

個人組手 **2位** 新田妃依 **ベスト8** 山本成美、青木七菜、渡部真奈美

## 男女総合優勝!! Bグループ 8年ぶり3回目

男子総合 優勝 (Bグループ 10年ぶり2回目)

女子総合 8位 (Aグループ)

\*第49回 (H23) 男女総合 Aグループ13位 (男子総合B 2位・女子総合A 9位)

\*第48回 (H22) 男女総合 Bグループ 2位 (男子総合A13位・女子総合A16位)

\*第47回 (H21) 男女総合 Aグループ 9位 (男子総合A 9位・女子総合A 7位)

\*第46回 (H20) 男女総合 Aグループ15位 (男子総合A21位・女子総合A 7位)

\*第45回 (H19) 男女総合 Aグループ11位 (男子総合A11位・女子総合A12位)

\*第44回 (H18) 男女総合 Aグループ10位 (男子総合A10位・女子総合A 8位)

□野球部 第94回全国高等学校野球選手権大会 (7/15～26 松江・浜山)

2回戦：大東 5-4 情報科学 3回戦：大東 6-8 大田

□吹奏楽部 第53回全日本吹奏楽コンクール島根県予選 (8/4 出雲市民会館)

高等学校小編成の部 金賞 (16団体中 第4位)

□写真部 春季写真コンクール (6/18 出雲高校)

特選：森山彩花 長妻里香 田中幸音 上代歩佳 金森えみ 和久利水青子

入選：森山彩花 藤原沙映 長妻里香 大村佳穂 和久利水青子 丹波綾香

○第32回国際英語教育弁論大会島根県大会

銀賞 高木みのり (しまね国際センター理事長賞)

優良賞 松本祐美

# 今春卒業生の進路状況について

進路指導部

## (1) 進路概要 (過去3年間)

|      | H21年度 | H22年度 | H23年度 |
|------|-------|-------|-------|
| 進学   | 141   | 94    | 125   |
| 就職   | 7     | 14    | 19    |
| 進学準備 | 2     | 5     | 1     |
| 合計   | 150   | 113   | 145   |

## (2) 進学状況 (平成23年度) ( )内は過年度卒・内数

|          | 合格者数  | 進学者数  |
|----------|-------|-------|
| 国公立4年制大学 | 31(5) | 28(5) |
| 私立4年制大学  | 55(3) | 27    |
| 公立短期大学   | 10    | 6     |
| 私立短期大学   | 17    | 10    |
| 医療系専門学校  | 27    | 19    |
| その他の専門学校 | 41    | 40    |

## (3) 就職状況 (平成23年度)

|    | 事務 | 営業販売 | 技能職 | 公務員<br>公務団体 | 計  |
|----|----|------|-----|-------------|----|
| 県内 | 0  | 3    | 9   | 2           | 14 |
| 県外 | 0  | 0    | 3   | 2           | 5  |
| 合計 | 0  | 3    | 12  | 4           | 19 |

今春の卒業生の進路状況は左記の表の通りです。

昨年に比べて、さらに就職者が増加しました。就職の希望者はさらに数名いましたが、公務員志望であったために、希望叶わず、結果的に進学に切り替えたものもありました。生徒は事務・販売系を希望することが多いですが、求人数は限られており、最終的には製造・技術系の職種に変更していく傾向にあります。希望地域は地元志向が強く、県外就職を考えるものはわずかです。今春は地元企業から例年以上の求人を出していただき、その点では大変助かりました。公務員志望者では高倍率のなか、久々に鳥根県職や鳥根県警・鳥取県警に就職することができました。

進学では、志望が多岐にわたる点は例年と変わりありませんが、特筆すべきは難関校と言われる旧帝大に5名(過年度生2名を含む)が合格できたことです。また近年、

医療系教育系志望者が多い傾向にありますが、今春もこの傾向に変わりはありませんでした。県内に大学医学部や看護学部、看護師養成の専門学校や理学療法師・作業療法師養成の専門学校など数校ありますし、将来地元での就職が考えやすいということもあり、多くの生徒が向かうように思います。全国的にも同様の傾向がみられ、特に看護系では定員以上の生徒が入学している学校も多数あると聞きます。こうした傾向のなか、出雲市にこのたび看護学校が誕生する予定です。求人数を繁栄した看護人気に益々拍車がかかり、しばらくはこの傾向は続くものと思われまます。誰もがお世話になる医療・福祉といった分野を担ってくれることを頼もしく思うとともに、地元から寄せられる期待に応えてくれるように頑張りたいと思います。

今春の卒業生の進路全体を振り返りますと、進学・就職ともに好成績を残すことができたといえます。その要因として、学校全体としての指導があったことはもちろんですが、保護者の方の協力・ご理解にも助けられ、1年次から学年生徒の全員が自らの克服課題に向けて努力した成果であると感じます。大東高校のひたむきに努力する姿勢を伝統として受け継いで、在校生にも目標に向かって頑張る進路を切り拓いてほしいと願っています。

八雲会会員様のもとで、あるいは近いところで、就職・進学している卒業生がおりましたら、励ましの言葉をかけていただきますよう、何卒よろしく願いいたします。



## 編集後記

会報「八雲」の発行に際しましては、ご多用の中、今年も多くの皆様のご協力をいただきました。心からお礼申し上げます。

2018年(平成30年)の創立100周年まであと6年です。校内では今年から100周年準備の特命担当が置かれましたが、卒業生会のネットワークの力なくして準備はできません。これからも各地で行われる支部会や、同窓会などの情報、各方面で活躍中の皆様の紹介記事などを載せネットワークをさらに広げていきたいと思っています。皆様からの情報、寄稿をお待ちしています。

また、学校の様子など、逐次大東高校ホームページに掲載していますので、時々ご覧ください。

大東高校内八雲会  
本部事務局

鳥根県立大東高等学校 〒699-1251 鳥根県雲南市大東町大東637  
TEL (0854) 43-2511・FAX (0854) 43-2512  
E-mail: daito-01@shimanet.ne.jp 新ホームページ <http://www.daito-h.ed.jp/>